

第6次横浜市男女共同参画行動計画策定部会 会議録（要旨）	
日 時	令和6年12月5日（木）10：00～12：00
開催場所	市庁舎18階なみき5
出席者 （五十音順）	小ヶ谷委員、戒能委員、菊池委員、小泉委員、野口委員
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者なし）
議題等	<p><u>議 事</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第6次横浜市男女共同参画行動計画策定の概要</li> <li>2 男女共同参画の現状</li> <li>3 第5次横浜市男女共同参画行動計画の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>● 進捗状況</li> <li>● これまでの審議会の主なご意見</li> </ul> </li> <li>4 第6次行動計画の方向性（案）</li> <li>5 答申の骨子案</li> </ol>
決定事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 部会長 小ヶ谷 千穂 とする。</li> <li>2 「第6次行動計画の方向性（案）」について意見聴取。</li> <li>3 答申の骨子案について了承。</li> </ol>
議事等 要旨	<p><u>議 事</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第6次横浜市男女共同参画行動計画策定の概要 委員互選により、小ヶ谷委員に部会長を選任。</li> <li>2 男女共同参画の現状</li> <li>3 第5次横浜市男女共同参画行動計画の振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>● 進捗状況</li> <li>● これまでの審議会の主なご意見 了承。各委員の意見を踏まえ、第6次横浜市男女共同参画行動計画の策定を進めていく（主な発言は以下のとおり）。</li> </ul> </li> <li>4 第6次行動計画の方向性（案） <ol style="list-style-type: none"> <li>2 基本姿勢、3 計画期間、4 取り組むべき3つの政策の方向性、5 計画の推進体制 について了承。</li> <li>1 目指すべき男女共同参画社会、6 第6次計画に新たに盛り込むべき視点 については各委員の意見を踏まえ事務局にて検討（主な発言は以下のとおり）。</li> </ol> </li> <li>5 答申の骨子案 了承。</li> </ol>

<b>議事1 第6次横浜市男女共同参画行動計画策定の概要</b>	
戒能委員	条例と各法律は、関係性が相互にある。それぞれ構造的な問題があり、それを解決することを目指すため、横浜市として必要な施策について議論していきたい。
菊池委員	男女共同参画センター機能強化に関する検討部会の議論は行動計画策定部会でどのように共有されるか。
事務局	男女共同参画センター機能強化に関する検討部会の議論の内容は必要に応じて書面等で共有させていただき、両部会で相互に連携していきたいと考えている。
<b>議事2 男女共同参画の現状</b>	
<b>議事3 第5次横浜市男女共同参画行動計画の振り返り</b>	
戒能委員	横浜市の特徴として、専業主婦率が高いこと、経済的に豊かな層であること、大企業と中小企業の両方が立地していること等があり、そうした市の特徴を踏まえ課題や意識を捉える必要がある。
小泉委員	女性の正規雇用比率について、研究ではちょうど35～39歳から40～44歳にかかる年代が子育て世代であり、残業や転勤、責任の多い仕事がない非正規雇用へ転換するためL字カーブになると言われている。企業は意欲、能力のある女性には離職してほしくないし、離職されれば新たに求人しなければならないため、正規雇用か非正規雇用かの2つの選択肢だけでなく、柔軟な働き方ができるような制度を設けるべきだが、横浜市のように中小企業が多いと制度自体がない企業も多いのではないか。
戒能委員	女性の正規雇用比率の改善には、女性の意欲の問題もあるが、今の性別役割分業意識があまりにも一般的すぎて上げられていない声に耳を傾けることが必要なのではないか。
小ヶ谷会長	女性の中にも多様性があるため、複数のロールモデルを作っていくことが重要なのではないか。
戒能委員	ライフステージのその時々に必要な選択ができるような仕組みがあることが重要ではないか。
野口委員	政策3施策9『「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」とは考えない市民の割合』について、地域におけるジェンダーに関する理解促進事業や広報・啓発や男性の家事・育児・介護への参画を促進するためのセミナーを実施した効果がわかりにくいため、他都市や全国と比較してはどうか。
野口委員	政策2施策4「DVに関する相談窓口の認知度」について、認知度を向上させることと相談員の安全を確保することの整合をどのようにとるのは課題である。
<b>議事4 第6次行動計画の方向性（案）</b>	
菊池委員	「誰もが多様な生き方を選択できる社会の実現」の「社会」を「都市横浜」としてはどうか。
戒能委員	「協働の視点」はキーワードとしては必要だと思うが、文言から内容がイメ

	ージしづらいため、困難女性支援法の視点が含まれているということが一般的に伝わるように説明が必要かもしれない。
事務局	書きぶりを工夫させていただきたい。
小ヶ谷委員	基本姿勢、計画期間については了承した。
菊池委員	5次計画の「誰もが活躍できる豊かな地域・社会づくり」の施策9「地域・教育における男女共同参画の推進」を、6次計画では「安全・安心な暮らしの実現」の施策6「地域防災における男女共同参画の推進」として特出したのであれば、それに連動し、地域防災拠点長の男女比を指標にしてはどうか。
戒能委員	男性と女性の家事・育児・介護の分担状況の指標について、男女の分担割合を指標にする場合は家事の種類や世代によっても異なるかもしれないため、細分化した方がよいかもしれない。
小ヶ谷委員	男性と女性の家事・育児・介護の分担状況の指標について、分担時間の理想と現実の差を指標とする案は積極的な目標の立て方なのでよいのではないか。
菊池委員	男性と女性の家事・育児・介護の分担状況の指標について、平等に向けた話し合いをしたことがあるかというようなコミュニケーションに関する指標を作ってはどうか。
菊池委員	「市民のDV理解度（精神的・性的）」について刑法改正に合わせ書き方を見直した方がよいのではないか。
戒能委員	「市民のDV理解度（精神的・性的）」について、刑法改正に合わせ指標の見直しが必要だが、まずは今後の市民調査で性暴力や性虐待を含めるなど、調査をする段階から始めていただきたい。
戒能委員	6（3）男性の生きづらさを解消するための取組について、新たに盛り込むべき視点として取り上げること自体は意味があるが、具体的にどのような取組をするのか。
事務局	ジェンダー問題への気づきを与えるようなワークショップを地域防災拠点で実施するなど、男女共同参画センターと協力しながら取り組みを行っていきたいと考えている。
菊池委員	6（3）男性の生きづらさを解消するための取組について、「解消」という表現を、より現実的な言葉にした方がよいのではないか。